

## 品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン骨子案 補足資料

### 策定委員会意見

#### 第2章関係

- ・ 参加している人だけが楽しんでいる状況もある（第1回）
- ・ 「施設が足りない」「現状のなかでもこういったことができる」ということを見通すべき（第1回）

#### 第3章 『目指すべき将来のまちの姿』の参考キーワード（策定委員会意見およびアンケート等より）

- ・ 質の高い文化芸術・スポーツ活動があふれる
- ・ さまざまな活動にさまざまな区民が集い、つながり、にぎわっている
- ・ 文化芸術・スポーツを通じて区民をつなぎにぎわいのまちへ
- ・ 住んでいて、働いていて、誇りが感じられる
- ・ 心豊かで健康なまち。住んで、働いて誇りに思えるまち
- ・ 訪れてみたくなるまち
- ・ にぎわいのまち
- ・ 文化芸術・スポーツが活発で人々がまちを愛している
- ・ 楽しくてにぎわっている
- ・ 歴史資産が活かされ伝統文化に親しみ継承されている
- ・ 一流からアマチュアまでさまざまな活動が行われている。
- ・ 地域の手作りのイベントが行われにぎわっている
- ・ おせっかいで人情のまちでにぎわっている
- ・ 文化芸術・スポーツが振興していてそれがまちのにぎわいにつながっている、住んで働いて誇れる
- ・ 文化芸術・スポーツの活動があふれ、働く人々も誇りに思える
- ・ 文化があふれアカデミックで豊かな品川区
- ・ 文化芸術・スポーツに親しみ、伝統や伝承、まちの人たちとの関係を大切にする
- ・ 一体感が形成されたあかるいまち
- ・ 文化芸術・スポーツ振興を通じてコミュニティが活性化
- ・ 文化芸術・スポーツを通じて心の豊かな区民が増える
- ・ おもいやりのある住みやすくてたのしいまち
- ・ 文化レベルがアップしより一層豊かになり住みたい町
- ・ 優秀なスポーツ区

- ・ 文化芸術・スポーツの振興によってまちに明るさ・楽しさが満載
- ・ 元気なまち
- ・ 一体感・連帯感が出て街全体に活気が出る
- ・ 文化芸術・スポーツが潤滑剤になり地域の交流を増やし、心豊かなまちになる
- ・ 人の輪が誇れるまち

#### 第4章 目標1 関係

- ・ 自分たちで管理し、自分たちで楽しんで、自分たちで地域を活性化しようとしている（第1回）
- ・ 住民の主体性・力量を創出していくようなビジョンを期待（第1回）
- ・ 参加しやすくする（第2回）
- ・ スポーツをしていない人に対してどうすればよいか（第2回）
- ・ 障害を持った方たちのスポーツ（第2回）
- ・ 団体に入っていない人が参加しにくい（第2回）
- ・ 人々がやっていることを外から見て一緒に入りたいと思えるような活動をやっていけばよい（第3回）
- ・ いつでも、だれでも、どこでも（第3回）
- ・ 主体的に参加する区民像（第3回）
- ・ 基盤になるのは人（第3回）
- ・ それぞれが主体性を持って責任を持ちながら自分の役割を果たしていく（第3回）

#### 第4章 目標2 関係

- ・ 学校との関係も考えていかなければいけない（第2回）

#### 第4章 目標3 関係

- ・ 歴史あるものを継承していく一方で新しい文化を生み出していくべき（第1回）
- ・ 掘り起こしと言う視点が大事（第1回）

#### 第4章 目標4 関係

- ・ 文化は難しく見えるが、本当は皆が楽しんで取り組める共通の要素ではないか（第1回）
- ・ 鑑賞型から参加型へ（第2回）
- ・ 一流のプレーを見ることがきっかけになる（第3回）
- ・ 参加と鑑賞のバランスをとりながら（第3回）

#### 第4章 目標5 関係

- ・ 敷居が高いと思われがちだが、だれもが触れ合えるものにするためにはどうすればいいか（第1回）
- ・ 地域の伝統を残し、維持していく。新しくお住まいになった方たちと結びつけていく（第3回）

#### 第4章 目標6 関係

- ・ スポーツの交流が健全な競争を生んで向上が図られる。（第1回）
- ・ アピールできる場があるとモチベーションが高まる。見てもらえるとコミュニケーションが生まれる。そういうときにはメディアの利活用が重要（第1回）
- ・ 見るスポーツ、支えるスポーツも大事（第1回）
- ・ 人と人がつながることによってコミュニケーションが生まれ、地域が賑わいをもつ（第1回）
- ・ にぎわいに結びつくビジョンをつくりたい（第1回）
- ・ 個人と個人、団体、企業のコラボレーション、新しい要素をどう入れていくか（第1回）
- ・ 活動を知らせて広めていくという下地が重要なパラメータ（第2回）
- ・ 新住民と旧住民、昼間区民をどううまくまとめるか、どういうターゲットに向けて何をやるか（第2回）
- ・ 紙媒体とケーブルテレビの充実を（第2回）
- ・ 主体的に参加する区民像を支える文化・スポーツの環境（第3回）
- ・ 礼節を守る（第3回）
- ・ スポーツをしていると笑顔を見せながら会話ができる（第3回）
- ・ 情報の発信・受診がしやすく、人々のつながりができればにぎわいになる（第3回）
- ・ 持続できる仕掛けが必要（第3回）
- ・ 人と人が出会って触れ合っていく中から本物のにぎわいが生まれてくる（第3回）
- ・ 主体性を損なわない形で競合できるようところで効果をあげていく（第3回）

#### 第4章 目標7 関係

- ・ 文化芸術スポーツを観光という観点から（捉え）品川区をにぎわいのまちにしていくことではないか（第1回）
- ・ 何がまちづくりに資するかは基準を設けるのではなく、自由に活発な活動が元気なまちにつながっていく。共有していく視点が大切（第1回）
- ・ まち全体にとって公共財としての効用がある（第1回）
- ・ 社会を発展させるインフラ（第2回）
- ・ イベントをにぎわいに活かす（第2回）
- ・ まちを回遊するようになるとにぎわう（第2回）
- ・ 文化芸術スポーツの優先度を生活の中で高める（第3回）

- ・ 都市型の23区環境を踏まえて、「住みたい、このまちに行きたい」ということを考えるべき（第3回）
- ・ 池袋、新宿、浅草のように遊びに行きたいというまちではなく、人がそこにすみたい生活したいというところにもっていったらいいのでは（第3回）
- ・ 文化芸術・スポーツが人々の輪に結びつくようなまちづくり（第3回）
- ・ クローズした形でなく、他区等の地域交流もおこないながら、「品川に行ったらこういうことができる」という場としての品川の地ということが大事（第3回）
- ・ 品川のブランド＝住んでいてよかった（第3回）
- ・ ファッション性を持った施設の提供が必要（第3回）
- ・ ブランド力をつけていかなければならない（第3回）